

歴史時代のあらまし

呼 称		期 間	ポ イ ン ト
近 代		明治時代～平成時代	・ 明治時代には平野の拡大が図られた。
古 代		飛鳥時代～江戸時代	・ 江戸時代に斐伊川の大洪水で斐伊川が宍道湖へ流入 ・ 広大な斐川平野が形成
古墳時代		約 1 7 0 0 年前～	・ 四絡の遺跡から多くの遺物が出土。
弥生時代		約 2 0 0 0 年前～	・ 三瓶山の噴火や斐伊川・神戸川の氾濫 ・ 四絡地区の遺跡の多くがこの時代以降のもの。
縄 文 時 代	晩期	約 3 0 0 0 年前～	
	後期	約 4 0 0 0 年前～	・ 三瓶山大噴火 小豆原埋没林
	中期	約 5 0 0 0 年前～	・ 神戸川流域で人の生活始まる？ ・ 斐伊川の洪水や三瓶山の大噴火で、大量の土砂が流れ込み、入海を分断して東西2つの水域に分かれる。 (西 神門水海 東 宍道湖) ・ 西部は神門水海となり、斐伊川と神戸川が流入。
	前期	約 6 0 0 0 年前～	
	早期	約 1 0 0 0 0 年前～	・ 氷期が終わり、気候温暖化し、海面上昇
旧石器時代			・ 矢野遺跡からは、隠岐産の黒曜石の破片が大量に出土しているが、いわゆる石器とは見られていない。

※斐伊川について

・斐伊川の名称

古事記では「肥の川」 日本書紀では「肥河」 出雲国風土記では「斐伊の大川」「斐伊の川」「出雲大川」「斐伊の大川」「斐伊の河」「出雲川」「簸伊川」等 時代や地域によって様々な呼び方をされていた。

・斐伊川の改修

平地に流れ出た川は蛇行するのが常であるが、斐伊川も例外ではなく、「川筋七筋になりて」とか、「八条の水脈」とか言われ、川の下流部は枝分かれしていた。これは「ヤマタノオロチ」伝説とつながる。1600年代からは河川改修が始まり、1700年代に一応の完成をみている。